

訃 報



故 村井眞二 元会長・名誉会員

元日本化学会会長の村井眞二先生が2025年6月30日に永眠されました。86歳でした。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

村井先生は、大阪市のご出身で、1966年に大阪大学大学院工学研究科を修了後、大阪大学工学部助手に就任され、1987年に大阪大学工学部教授、1999年に大阪大学工学部長・工学研究科長を務められました。大阪大学をご退職後も、奈良先端科学技術大学院大学理事・副学長、科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ大阪館長、岩谷産業株式会社中央研究所長としてご活躍されました。

その間、遷移金属触媒を用いる様々な有機合成反応の開発を行い、この分野で多大な貢献をされました。また、未来型資源の1つである一酸化炭素を用いる触媒反応の開発も推し進めました。特にルテニウム触媒を活用するC-H結合活性化型触媒反応は世界初の歴史的な成果であり、反応工程数や廃棄物の低減など合成経路の簡略化が可能になり、環境の観点からも最も重要な化学変換反応の1つとされています。

日本化学会においても、論説委員会委員長、近畿支部長、副会長として尽力いただきました。2005年に日本化学会会長に就任されてからも、様々な学会の改革に取り組まれ、それらは現在の学会運営にも生かされております。

また、後進の育成にも力を注がれ、現在も多くのお弟子さんが有機金属化学や有機合成化学の分野でご活躍されています。

長年のご業績が認められ、先生は、2017年文化功労者に選ばれました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

村井眞二元会長のご逝去を偲んで

元日本化学会会長の村井眞二先生が2025年6月30日に86歳でご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

村井眞二先生は、1961年に大阪大学工学部応用化学科をご卒業後、1987年に同大学工学部教授になられ2002年にご退職されるまで、研究と教育に精魂を傾けられました。この間、同大学工学部長や科学技術振興機構（JST）さきがけ研究の領域総括、JSTイノベーションプラザ大阪館長など多くの要職を務められました。また、ご退職後はJST研究開発戦略センター上席フェロー・特任フェローや奈良先端科学技術大学院大学の理事・副学長、JST科学技術イノベーション企画推進室上席フェロー、文部科学省研究推進局技術参与も務められるなど、科学の発展に多方面からご尽力されました。これらのご貢献により日本化学会学術賞（1985年）、日本化学会賞（1998年）、有機合成化学協会特別賞（2005年）、藤原賞（2006年）、学士院賞（2010年）、瑞宝中綬章（2013年）、朝日賞（2015年）、文化功労者顕彰（2017年）などの榮譽を受けられました。

村井先生は常に真に新しい有機反応の開発を目指しておられました。博士研究員として米国ウィスコンシン大学でのご研究の経験から有機ケイ素化合物の特長を使った触媒反応の開発や、 π アリル金属がもつ特性を巧みに使った分子変換反応、高反応性のアシルアニオンの発生と利用など、斬新な有機合成手法を数多く開発されました。中でも、1993年に報告されたC-H結合の触媒的変換反応は、世界に大きなインパクトを与えました。この成果が報告されるまでは、C-H結合を利用する重要性は広く認識されていたものの、それを達成することは不可能視されていました。村井先生はこの課題に取り組まれ、世界で初めて高効率・高選択的なC-H結合官能基化を達成されました。この成果は、有機合成化学における新しい領域を開拓したものであり、今ではC-H結合官能基化に特化した国際会議が開催されるなど、このご研究が世界規模での有機合成化学研究の新潮流を創出しました。

村井先生は常々、すべての時間を化学のために使って研究しなさいということや、我々にしかできない一流の研究をするために弛まずに努力しなさい、とおっしゃっていました。一流の研究成果を出すためには日頃から頂点を目指すための努力を怠ってはならない、ともおっしゃっていました。研究に対してはとても厳しく、納得できる成果が出るまで努力することを諦めない、という強い信念を持って学問に取り組まれていました。その一方で、研究以外のことではとても優しく、私たちのたわいもない話にも気軽に乗って下さることがたびたびありました。また、困っている学生を一早く察知され、問題が解決できるように手を差し伸べておられました。先生は受賞記念や長寿の祝賀会を催すことは嫌がられ、これらのお祝い事とは関係なく同窓会として開催して卒業生に会うことをとても喜んでおられました。このような先生の研究に対する哲学と優しいお人柄を慕って、多くの学生が村井先生に師事し、産官学を問わず研究者として科学の発展に携わっています。

もう村井先生からのご指導を賜ることが叶わなくなり悲しい気持ちで一杯です。もっと新しい課題創出型研究をしなさい、という厳しいお言葉が今でも聞こえてきそうです。先生から薫陶を賜った全員がそのご恩に少しでも報いることができるように、先生のご遺志を心に刻んで弛まず学問・研究に取り組みたいと思います。村井眞二先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

垣内 史敏（慶應義塾大学教授）